

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970101844
法人名	社会福祉法人ひかりの里
事業所名	めだかの学校シニア
所在地	〒 400-0016 電話番号 055-255-3551

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年2月28日

## 【情報提供票より】平成19年12月31日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	2人 非常勤 10人 常勤換算 4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 0 ~ 3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	■有( 90,000 ) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有( ) 有りの場合 □有 ■無 償却の有無 □無			
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1166 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年12月31日 現在

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひかりの里クリニック
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年2月7日

開設して3年目となる当ホームは、甲府駅北口より徒歩7分余りの幹線道路に面した場所に位置する、鉄筋3階建て建物の3階部分にある1ユニットのホームである。1、2階は養護施設となっており、その施設の子供達とコーラスの練習会や昼食を共にする等の交流が日常的に行われ、ホームに子供達の遊ぶ明るい声があり、又利用者が子供達に注意を促すこともある。職員も笑顔でその様子を見守り、声掛けをすることにより、家庭的な雰囲気が醸じだされている。夫婦部屋も用意されており、現在1組の夫婦が入居されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で指摘された改善点については、干し物の場所、手摺の設置などは改善されている。地域との関わりは文化祭に合唱を披露したり、祭りに参加したり交流の場を増やしている。今後も運営推進会議の話し合いの中で事業所の行事に参加してもらう等、地域に密着した取り組みを積極的に行っていく考えである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員の意見を確認し自己評価に反映している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表・社会福祉協議会長・地元民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・介護支援専門員・隣人で構成されており(2回に1度市職員出席)2ヶ月に1度開催されている。討議内容は事業計画・事業報告・外部評価の結果報告である。家族代表からの要望や意見も活発にだされる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者が窓口となっており、家族が来訪時気軽に話し合える関係作りが出来ている。スタッフの名札、肺炎のワクチンの接種をすることは家族からの要望を取り入れたものである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 前回の外部評価で改善課題として指摘を受けている項目である。地域の文化祭、神社清掃、もちつき大会に参加しているが、これからの課題として自治会に働きかけ事業所の行事に参加してもらうような取り組みをしていくことにより、地域との交流を深めていくことを計画している。

## 2. 調査報告書

事業所名：めだかの学校シニア

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は利用者が家庭的な雰囲気の中で、安心して一日一日を大切に楽しく過しながら、地域との交流を深めていくことを理念として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関入り口に掲示されており、実践するためには、まず職員が笑顔であることを互いに確認し合って実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	餅つき大会・神社の清掃等地域の行事には参加している。ホームの行事にも地域の人々に参加してもらおうための取り組みを考えている。	○	地元の運営推進会議のメンバーや、加入している自治会への働きかけを積極的に行い、事業所の啓発、地域の人々との交流を深め、地域の人々に気軽に訪問してもらえらる様になることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は充分理解し、前回の評価で指摘された改善点であるトイレへの手摺りの設置・洗濯物の干す場所については改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・社会福祉協議会長・地元民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・介護支援専門委員・隣人の出席のもと開催されている。討議内容は事業報告・計画・外部評価の結果報告である。家族代表からも意見が出されサービスの向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、2回に1度市の職員の出席があり、相談できる体制が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が県外在住の利用者が多く月1回程度の来訪であるため、日々の暮らしの様子はビデオや写真に撮っておき来訪時に見てもらっている。小遣いは2万円程度預かり、金銭出納帳・領収書に認印をもらっている。その他電話にての連絡も密に取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時に気軽に話し合える関係作りが出来ている。刻み食にしたり、職員に名札を付ける事など家族からの意見を反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人系列のグループホーム「悠ゆう」との職員異動はあるが、日常的に交流を行っているので、混乱はみられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部施設で開催される研修会に出席している。外部研修については速やかに情報提供を行い希望する職員への配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームに利用者と一緒に訪問し交流を深めている。職員はグループホーム協会の主催する研修会に参加し、積極的に意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家庭訪問をする、又利用者・家族に見学に来てもらうことにより、徐々に場の雰囲気や職員と馴染むための配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員の仕事を理解し励ましてくれることがある。片手でしかピアノを弾くことが出来なかった利用者に、孫の来訪を語りかけたことにより両手で弾くことが出来るようになる等、お互いに支え合う関係が作られている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が出来る利用者には個々に添った支援を行っている。意志の把握が困難な場合は、本人の仕草や生活歴を家族から聞くことにより本人の意向を理解し支援を行った結果症状の改善が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時本人、家族と共にセンター方式にのっとたアセスメントを行い、それに基づいて介護計画が作成されている。毎月行われている職員会議で介護計画の検討が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っている。状況の変化が生じた場合はその都度話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族それぞれの要望に応じて柔軟な支援を行っている。現在は行っていないが、ショートステイの希望があれば受け入れる準備はある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期検診・レントゲン検査・予防接種・ひかりの里クリニックへの受診は事業所で対応している。法人本部の病院であるため、迅速な対応が出来る関係が作られている。従来のかかりつけ医への受診は家族が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受け入れる準備はあり、本人・家族には伝えてある。現在、成年後見制度の利用者もいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの状況に応じてプライバシーを損なわないような言葉かけや、さりげない介助が行われている。記録も個人情報に配慮された保管がされている。食事の折、職員がふと小さな子どもに話すような言葉掛けをしていた。	○	利用者はあくまでも人生の先輩であることを自覚した言葉掛けをのぞむ。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余裕を持って、一人ひとりの気づきに配慮しながらの支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を生かした盛り付け、食べやすい器具を使用するなどの配慮がなされている。また急ぐことなく一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間の決まりはなく、一人ひとりのタイミングに合わせた入浴を楽しめる支援が行われている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	電子ピアノが用意しており、利用者が弾いて好きな歌を合唱するなどが行われている。合唱部もあり地域の文化祭に参加している。新聞の購読もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物・散歩の支援を一人ひとりの希望に添って行っている。その他、地域の福祉センターや、同法人系列のグループホーム「悠ゆう」との交流も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵は掛けていないし電子ロックではない。3階であるためエレベーターを利用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知器・火災受信板・火災通報専用電話機が設置されており、緊急時の連絡網も用意されているが、地域住民への協力依頼の働きかけが不十分だと考えている。	○	3階に位置するため、日ごろの外出支援の折に災害訓練の日を定め、日常的に職員の意識確認をしておくことを望む。また、地域の消防団・近隣住民の協力を得られるような働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ひかりの里」法人本部の管理栄養士による、カロリー・水分量・食事メニューの指導が行われており、一人ひとりの能力に応じた支援が行われている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはゆったりしたソファが置かれており、昼寝をしたり、くつろげる場所となっている。曲線のテーブルは全員が顔を合わせての食事ができるような配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	聖書や家族の写真等、本人の生活歴で馴染みのものが置かれており、それぞれ好みの設えになっている。室内は南向きで明るい。		